

しょうをつんでだいとなす

# 積小為大



豊川市立東部小学校  
校長室だより  
令和2年5月号 其の2

## 学校再開の準備を進めています

「学校は臨時休業で、子どもはいないけど先生たちは何してるの?」「先生もお休み?」という素朴な疑問をいただくことがあります。はい、もちろん勤務日ですので学校で仕事をしています。自主登校教室の監督はもちろん、配付する家庭学習の課題制作やメールやホームページを使った課題の提示、学校が始まった時のための授業の準備や教材研究などが主な仕事です。6月再開、夏季休業短縮というスケジュールに合わせて、年間カリキュラム(教育課程)の作り直しも行います。4月後半からは、教職員にもテレワークを推進するよう指示があり、可能な範囲で在宅勤務をしてもらっています。豊川市の学校コンピュータシステムには「リモートワーク」といって、自宅からもいつものコンピュータ環境にアクセスできるようになっていますので、直接子どもに関わったりしない業務は自宅で安全に遂行することができます。

担任以外の教職員は、担任とも相談しながら学校再開後のコロナウイルス感染予防対策を踏まえた新しい学校生活の方法について、検温・マスク・消毒・換気等の対応や、登下校・授業・給食・運動・行事などをどうするかを話し合ったり準備したりしています。

状況が日々刻々と変わり、文部科学省や県、市から次々と休業の延長や対応方法等、変更や追加の指示がくるので、その都度学校の対応を考え、できるだけ早く、分かりやすく保護者の皆さまにもお伝えするように心がけております。

21日からの学校再開準備期間の登校方法や、6月以降の学校生活については、この校長室だよりでは書ききれないので、別途、ご案内をさせていただきます。学校再開後も引き続き感染対策のため、多くの制限や制約があり、ご不便やご迷惑をかけることとなりますが、安全な学校生活のために是非ご協力ください。よろしく願います。(★ここまで書いた時点で県の学校再開前倒しの一報が入って来ましたが、市の通知が出ましたら、最新の情報をお知らせします。)

子どもたちにも、差別やいじめ、不確かな噂話を広めることはやめるよう指導します。

今回のコロナウイルス対策の中で、私たちは、本当に政府や自治体の要請を受け入れ、他国のような法的拘束力があるロックダウンではなく自粛の要請であっても、みんなで我慢して感染拡大を阻止しようと努力してきました。最前線で闘っている医療従事者や、毎日の生活を支えてくれるスーパーマーケットや薬局の店員さん、運送業者さんなど、頑張っている方々に多くの人々が感謝の意を示しています。

しかし、逆に、信じられないような悲しいニュースが報じられることもあります。マスクが買えず薬局のレジの店員を罵ったりする人。感染者の対応をしている病院で働く看護師の子どもや家族が、通園を拒否されたり、会社に出社しないよう求められたり、事実ではない噂で「お前の会社はコロナの患者がいるだろう、営業を停止しろ」等の嫌がらせがあったとのニュースがありました。自治体のルールを守って営業を続ける飲食店の看板に「営業やめろ」と落書きがされたり、実際に感染者のご自宅等の個人情報やネット上で晒され、家にスプレーで落書きされたり、投石されたりという信じがたい事案も報道されていました。

感染の恐怖から、自分だけは安全でいたいというエゴで、他人の生活、人権を踏みにじることは許されません。

例えどんなに完全な対策をしたとしても、ウイルスは誰にでも感染する可能性があり、いつ自分がその立場になるかわかりません。もちろん、感染した人に罪があるわけではありません。



4年生で育てるツルレイシの苗

学校が再開した時に、感染対策に万全を図ると同時に、この、「差別・いじめ・人権問題」について、子どもたちに指導し、考えさせたいと思っています。

文責(校長 金澤哲哉)